

# オーストラリアのサーフライフセービングの歴史

1907年の協会設立以降、520,000人以上の命を救ってきたオーストラリアのサーフライフセービング。現在ではオーストラリアを代表するものの一つと言われるまでに人々の生活に根付いているその活動ですが、背景にはどのような歴史があったのでしょうか。

## 背景

1830年代以降、オーストラリアでは午前6時～午後8時までの間、公共の場で泳ぐことが禁じられていた。そこで、当時海水浴を楽しんでいたシドニーの人々は州政府に対して解禁運動を行い、その影響を受けて次第に地元の警察官らも遊泳者の逮捕を拒否するようになっていった。そして遂に1902～1905年の間に、シドニー周辺のすべての海岸では法の解禁に至り、海水浴は急速に人気となったが、海の危険性について知識のない人々の多さから事故が絶えなかった。



Photo courtesy of Surf Life Saving WA



Photo courtesy of Surf Life Saving WA

## 設立～現在

法の解禁後、初めのうちは泳ぎの得意な有志によって救助が行なわれていたが、1907年にオーストラリアで最初と言われるサーフライフセービングクラブが、シドニーで設立された。同年10月18日には、シドニーの各クラブ、ロイヤル・ライフセービング協会、ニュー・サウス・ウェールズ (NSW) 州のアマチュアスイミング協会が集まって、Surf Bathing Association of NSW を設立。1923年には全国組織化されてオーストラリア・サーフライフセービング協会となり、現在305のクラブが加入、メンバーは112,000人を超える。

## Black Sunday

「暗黒の日曜日」として知られるこの事件は、オーストラリアのサーフライフセービングの歴史の中で最も悲劇的なものとなったと同時に、ライフセーバーの存在を国中に一気に広めるものとなりました。

1938年2月6日の午後3時半、多くの海水浴客でにぎわうシドニーのボンダイビーチを、突然巨大な波が次々に襲った。その日の海は荒れており度重なる警告が出されていたが、波は浜辺にいた数百人をのみ込み、370人近くが溺れる大惨事となった。居合わせた70人近くのライフセーバーたちがロープとリール、サーフボード、浮き輪などを持って救助にあたり、中には何も持

たずに海へと向かった者もいた。海の中ではパニックに陥った人々がライフセーバーたちによじのぼり、作業は非常に困難なものとなったが、全員が15分以内に岸へと運ばれた。その後近くに住む医者や救急車が呼び集められて救急処置に応じ、懸命の救助の結果、その日の終わりまでにはほとんどが意識を取り戻したが、5人が死亡した。

## Column

### 世界のライフセービング

17、18世紀にヨーロッパで始まった水辺での事故防止や救助のための動きは、19世紀に入ってイギリスで広まった。1891年には、同国で「スイマーズ・ライフセービング協会」が設立され、1910年にはヨーロッパ各国によって初の国際組織「FIS (Federation Internationale de Sauvetage aquatic)」が誕生した。その後世界各地でも活動が活発になり、

1971年に環太平洋の国々が「WLS (World Life Saving)」を設立。この2つの国際組織は1993年に統合し、現在の国際ライフセービング連盟 (International Life Saving Federation : ILS) となった。毎年数十万件にものぼる水辺での事故を少しでも減らすために、ILSはレスキュー、教育、スポーツ、医療、開発の5機関に分かれ、積極的な活動を行っている。